



第1巻 第1号

発行日
平成18年1月

小樽病院広報委員会

創刊にあたって

病院長 鈴木隆

日頃、患者さまには当院をご利用していただきありがとうございます。皆さまの少しでも早いご快癒の期待にそえるよう職員一同、よりよい療養環境作りに努力しております。

当院では、これまで患者さまの待ち時間が長かったため、お待ちいただいている患者さまにどうすべきかを考え、昨年の秋から予約外来を開始しました。その他に、お待ちいただいている間に読んでいただけるような病院新聞を発行することになりました。内容は、皆さまに関心のあることやお知らせを載せていきたいと考えております。

皆様のご意見を参考にによりよい紙面をめざしていきますので、今後ともよろしく願います。

健康のはなし

インフルエンザについて

インフルエンザは通常の「かぜ」とは異なります。インフルエンザウィルスが、のど、鼻などから体内に侵入しておこる病気で高熱、全身倦怠感、筋肉痛、頭痛、のどの痛みなど、かぜに比べ重症感があります。高熱が数日続きますが、体力があれば、自然経過で治癒します。高齢の方はインフルエンザがもとで肺

炎になることもあります。発症後48時間以内であれば特効薬により症状は劇的に改善しますが、解熱剤の使用・安静・十分な栄養・水分補給なども重要です。

インフルエンザになった場合、最も人にうつしやすいのは発症直後で、解熱後2日を経過すれば周囲への感染の危険は高くありません。しかし治療より予防が大切で、流行前にワクチンを接種してウィルスを無力化する「抗体」を血液中につくり、インフルエンザにかからない、あるいはかかっても軽症にとどめるようにすることが重要

です。この抗体ができるまでは接種してから2週間は必要ですので、流行中に予防接種をしてもインフルエンザにかかる可能性があり注意が必要です。

インフルエンザは「飛沫感染」という感染経路でヒトからヒトへ感染していきます。インフルエンザにかかっている人が咳をして飛沫が飛び、飛沫は1m以内に落下します。咳の瞬間自分の手を口にあてると、自分の手にインフルエンザウィルスを多量に含んだ粘液が付着します。その手でドアの取っ手、水道の蛇口等あちこちに触れると感染の原因となります。院内や公共施設、乗り物ではその都度消毒は不可能ですから「手洗い・うがい・マスク」、人混みの中へは極力行かない「ことがインフルエンザにかからないためには重要です。

致死率の高い、高病原性鳥インフルエンザのヒトへの感染は幸い日本では確認されていませんが、インターネットなどで世界の動向に目を向ける必要があります。

(http://idsc.nih.gov/jp/disease/avian_influenza/index.html)

(内科呼吸器 中野剛)



市立小樽病院基本理念

優しさと思いやり

- ・ 市民に信頼され、満足していただける、安全な病院を目指します
- ・ 市立病院としての誇りを持ち、地域に貢献できる病院を目指します
- ・ 患者さまと私たちが勇気と希望を共有できる病院を目指します

病院の食事について

私たちが健康に暮らししていくためには、日々食事から栄養素を取り入れなければなりません。それでは病気になるってしまったときの食事は、どのようなことに注意したら良いのでしょうか。このような時は、まず患者さまの体力を高めて病気への抵抗力を養うような内容にすることが大切です。病院に入院中の食事も同様ですが、さらに病気の種類や処方されている薬によって、食事内容が病状に影響を及ぼすことがあります。このため食事は患者さまごとに必要な栄養素や量、調理方法なども変わるので、医師の指示のもとに提供しています。

病院の食事は「一般食」と「特別

「食」に分けられています。「一般食」は自然治癒を目的にした食事です、おもに食事の軟らかさで分類されています。かむ力が弱い、飲み込む時にむせてしまうという症状に対応したトロミ状の食事も用意されています。「特別食」とは特定の病気の患者さまに提供する食事で、糖尿病や腎臓病、肝臓病などに対応した食事です。このような食事については、退院後の食生活でも継続していくことが重要です。当院では管理栄養士による栄養相談・指導を行っていますので、ご希望の方は担当医師や看護師にご相談ください。

(医事課給食係 高谷 昌子)



脳神経外科外来休診について

当院の脳神経外科外来診療は、市立小樽第二病院脳神経外科の医師が担当していましたが、都合により昨年末で休診することにしました。ご利用されていた患者さまにはご不便をおかけします。引きつづき、第二病院でのご利用をお願い致します。

新しい市立病院の建設を目指して

新市立病院の建設は、今回、建設の候補地を築港地区の土地(ウイングベイ南側の未利用地)に絞って具体的な検討に入りました。

新しい病院の規模からしまして、建設には30,000㎡程度の土地が必要とされ、交通アクセスなども十分考慮される必要があります。基本構想は固まりましたが、財源の問題など、まだいくつかハードルがありますので、現在、それらの課題を一つずつ整理して、飛び越えるべく作業をすすめています。

ご承知のとおり、現在の両市立病院は老朽化が進み、手狭で、患者さまにご迷惑をおかけしていますが、これは、医療を提供する側にとっても大きな問題となっています。また、病院が二つに分かれているので、経営上の効率が悪くなっています。そのため、快適で機能的な病院の建設は待たない状況です。着手してから開院までには、5年程度の期間が必要です。1日でも早くゴーサインが出せるよう、職員一丸となって頑張っています。



糖尿病教室のお知らせ

お知らせ



近年「生活習慣病」が増加しております。中でも糖尿病と糖尿病予備軍の数は厚生労働省の発表のたびに増加してきております。当院では糖尿病の患者さまとご家族に糖尿病への理解を深めていただくため、「糖尿病教育入院」を行っております。

2週間の入院中は「糖尿病教室」に参加していただき、病気のこと、薬のこと、食事療法のこと、運動療法のことなど糖尿病のすべてを学ぶことができます。

特に食事は大切ですが、それを自分の目で覚え、舌で覚え、胃袋で1日3回覚えていきます。予備軍の方でも是非学ぶことをお勧めします。

なお教育入院をご希望の方は内科医師にご相談ください。



結石破碎療法の開始について

泌尿器科で結石破碎療法が1月から開始となりました。これまで他院を紹介し受診していただいていたが、当院でも尿路結石における質の高い医療が可能となりました。



樽病だより
こころ

外来診療開始時間は午前8時40分からです。

発行 / 市立小樽病院
編集 / 市立小樽病院広報委員会
〒047-8550 小樽市若松1丁目2番1号
0134-25-1211
E-mail: webmaster@med-otaru.jp
ホームページ: http://www.med-otaru.jp/